

<指導の実際>

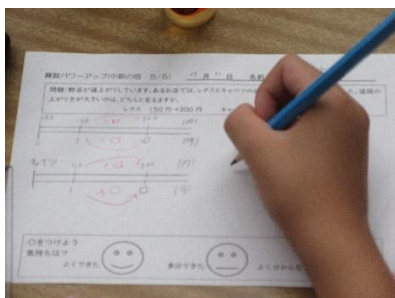
①教育データの活用について(○成果 ●課題)

活用したデータ資料・・・スクールダッシュボード

○継続的に意欲の低い児童を把握して、授業中の声掛けに生かすことができた。

●授業アンケートに入力した気付きを、授業の終末や次時の導入等に生かしていきたい。また、フィードバックをどのように行うか、検討していきたい。

②指導と評価の手だての効果と課題、児童の反応



手だて③ 既習内容の確認(パワーアップ問題) 本時で自力解決を円滑に行うために有効であった。ただし、時間がかかることが課題である。

手だて⑦ 黒板前に集めた一斉指導 解決の見通しが見つからない児童には、教師主導で一緒に解決方法を見出した。見通しをもてた児童は、説明の途中でも自席に戻り自分でノートに考えを記していた。

手だて⑥ 誤解答の提示と根拠の明確化 児童の深い学びを促せるように、敢えて誤解答を提示した。児童は、なぜそれが誤りなのか根拠(数直線)をもとに考えを再構築し、数値の意味を再認識することができた。

<協議会>

授業者の意図・反省

- ・最後まで授業が終わらなかった。0.8と0.75の違いを子どもたちから出したかった。
- ・スクールダッシュボードから読み取れる実態を指導案に記載した。今後さらなる分析に生かしていきたい。
- ・パワーアップ問題は昨年実施し、学力が上がった。今後も、前時の復習をこのような形で積み重ね、基礎基本の定着を図りたい。

研究協議(○成果 ●課題)

○既習問題の確認がよかった。これがあったことで先を見通せ、本時の自力解決が行えた。

○子どもたちに押さえてほしいことをキーワードにして、覚えやすいようにしていたことが有効であった。「解決アイテム」や「キーワード」等、道しるべを示していくことが大事である。

○ムーブノートを使うと、児童が離席せずに考えを参考にしたり、コメントを交流させたりすることができる。

●ホワイトボードだと説明力はつくが、一定の子どもだけになってしまう。

●答えを先に出して、クローズアップしたいところに時間をかけてもよい。

●スクールダッシュボードについては、キーボードを使って日常的に行わせ、慣れさせて基礎をつくる必要がある。